マルウェアによるファイルの不正変更を保護する

2017/12/17 現在

Windows 10 バージョン 1709 になり新たな機能が加わりました。その一つは「コント ロールされたフォルダーアクセス」です。

従来、脆弱性を緩和するしくみとして追加インストールする EMET(Enhanced Mitigation Experience Toolkit)がありましたが、その開発を終了し、OS の一部となる Windows Defender Exploitation Guard に統合しています。その一環として「コントロールされたフォルダーアクセス」が Windows Defender セキュリティ センターに追加され ました。

「コントロールされたフォルダーアクセス」は、ファイルシステムを暗号化してユーザ ーに身代金を要求するランサムウェアなど、マルウェアによるファイルやフォルダーの変 更を抑止する機能です。既定では無効になっていますが、以下の手順で有効化できます。

注意:

「Windows Defender」以外のウイルス対策ソフトをインストールしている場合、「コントロールされたフォルダーアクセス」を含む「ウイルスと脅威の防止」機能は自動的に無効になります。したがって「コントロールされたフォルダーアクセス」を「オン」にできません。

「Windows Defender」以外のウイルス対策ソフトが実績のあるメーカーのものなら、大きな問題となっている「ランサムウェア」対策は追加されているはずなので、無理に「Windows Defender」に切り替える必要はありません。

Windows Defender セキュリティ センターを開く

- 1.「スタート」ボタン⇒「設定」⇒「更新とセキュリティ」⇒左の一覧の「Windows Defender」 で開いた画面の中央「Windows Defender」の見出しの下の「Windows Defender セキ ュリティ センターを開きます」ボタンをクリックする。
- 2. 「スタート」ボタン⇒「すべてのアプリ」の W までスクロールし「Windows Defender セキュリティセンター」をクリックする。
- 3. タスクバーの右の通知領域に Windows Defender notification アイコン 🔂 があれば、 それをクリック、なければ通知領域の山形をクリックして同じアイコンをクリックする。
- 4. 検索ボックスに「Windows Defender」と入力し、検索結果の「Windows Defender セ キュリティセンター」をクリックする。





「コントロールされたフォルダーアクセス」を有効(オン)にする

「ウイルスと脅威の防止」をクリックする。



「ウイルスと脅威の防止設定」をクリックする。

3/4



品 コントロールされたフォルダー アクセス

悪意のあるアプリケーションによって、ファイルやフォルダーが不正に変更されないように 保護します。



除外

Windows Defender ウイルス対策では、除外した項目はスキャンされません。対象 外の項目に、お使いのデバイスを聴弱化する脅威が含まれている可能性があります。

◎ 除外の追加または削除

「コントロールされたフォルダー アクセス」の下のスイッチをクリックして「オン」に する。

4/4

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか」のボックスが表示されるので「はい」をクリックする。

←	Windows Defender セキュリティ センター	-	×
≡	サンプルの自動送信		
ŵ	潜在的な脅威から自分と他のユーザーを保護するために、Microsoft にサンブル ファ イルを送信します。 必要なファイルに個人情報が含まれている可能性がある場合は、 メッセージが表示されます。		
0			
Ş	オン		
ഗ്രം	プライバシーに関する声明 サンプルを手動で送信する		
彘	コントロールされたフォルダー アクセス		
	悪意のあるアプリケーションによって、ファイルやフォルダーが不正に変更されないように 保護します。		
	(オン		
	保護されているフォルダー アプリをコントロールされたフォルダー アクセスで許可する		
	除外		
ŝ	Windows Defender ウイルス対策では、除外した項目はスキャンされません。対象 外の項目に、お使いのデバイスを脆弱化する脅威が含まれている可能性があります。		

これでファイルが不正に変更されないようになります。